

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-194	高等学校	芸術	音楽 I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
27 教芸	音 I 310	MOUSA1		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

### [編修の趣旨]

教育基本法の趣旨に則り、学習指導要領芸術科音楽 I に示された内容を無理なく習得することができるように、次の事項を編修の趣旨としました。

#### ①学習の観点が明確に分かる教科書

歌唱、器楽、創作、鑑賞の教材においては、多くの教材に活動内容を示し、学習の観点が明確に分かるよう工夫しました。

#### ②基礎的な内容を確実に学習することができる教科書

演奏する際の注意点や、音楽用語の読み方とその意味を必要に応じて掲載し、音楽の能力が確実に定着するようしました。

#### ③主体性や創造性を育む学習に確実に取り組むことができる教科書

生徒一人一人の主体性や創造性を育むうえで特に大切な「創作」の学習内容を吟味し、その学習に確実に取り組むことができるよう、手順を明確に示しました。

#### ④我が国や世界の音楽文化のよさを味わいながら豊かな心を育むことができる教科書

我が国の音楽文化、また世界の音楽文化の特徴を感じ取ることを通して、それらのよさを味わうことができるようにしました。それによって、自国の音楽文化に誇りをもつとともに、他国の音楽文化に対しても自国と同様に尊重する態度を養えるようにしました。

#### ⑤生涯にわたって音楽への愛好心を育むことができる教科書

生涯にわたって音楽への愛好心を育むことができるよう、新しい音楽経験と出会った際に役立つ教科書を目指し、教材が一つの地域や時代、ジャンルに偏ることのないよう留意するとともに、さまざまな教材を通して多様な音楽に接することができるよう配慮しました。

#### ⑥中学校の学習内容を系統的に発展させることができる教科書

中学校の学習内容を系統的に発展させて学習することができるよう、また、中学校との連携がスムーズになるよう工夫しました。

## [編修上の留意点]

より分かりやすく、学習をスムーズに進められる教科書とするために、次の点に留意しました。

### ①ユニバーサルデザインを目指した内容やデザインにする

全ての生徒にとって、分かりやすく取り組みやすい教科書となるよう、教材の難易度や文章の内容について細やかに配慮しました。また、色の見分けがつきにくい生徒にとって学習上の支障が生じないように、当事者のチェックを受けています。

### ②生徒の興味・関心を高め、学習意欲を喚起しやすい内容にする

生徒の興味・関心を高め、学習の動機付けとなるような情報を提示することで、より主体的な学習ができるよう工夫しました。

## 2. 編修の基本方針

教育基本法第2条に定められた教育の目標を踏まえ、芸術科音楽Iにおける知識・理解を深めて思考力・判断力・表現力をバランスよく育成するために、次のような基本方針に基づいて編修しました。

1

芸術科音楽Iの学習を通して幅広い知識と教養を身に付けることができるよう、学習指導要領に示された「内容」を網羅しました。

2

「創作」の学習などを通して個人の創造性を培うとともに、グループ活動等によって主体的に「協働」しながら学習を進めることができるようにしました。

3

命を大切にする心や、他人を思いやる心を養うことができるような歌詞の歌唱教材を多く取り入れました。

4

我が国や郷土を愛する心を育むことができるよう、我が国や郷土の伝統音楽を教材として取り上げました。

### 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな音楽的感性や情操を育成することのできる教材を選択・配列しました。(第一号)</li> </ul>	p.4～143
歌唱教材	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語の学習と関連付けられるように、英語の歌唱教材を取り上げました。さらに、イタリア語やドイツ語にも興味・関心をもつことのできる教材を含めました。(第一号)</li> <li>他人を思いやったり自然を愛したりする心を育てる教材や、道徳的観点と関連付けて取り上げることのできる教材を含めました。(第一号、第三号及び第四号)</li> <li>我が国の民謡と謡を歌唱教材として取り上げ、我が国の伝統的な歌唱の学習を確実に行うことができるよう配慮しました。また、朝鮮半島民謡とスイス民謡を歌唱教材として取り上げ、他国の文化を尊重する態度を養えるよう配慮しました。(第五号)</li> <li>世代を超えて親しみ、歌い継いでいくという趣旨を生かした学習が行われるように、「心の歌」を掲載しました。また、それぞれの歌詞で歌われている風景に情趣を感じる心を養い、自然の大切や環境保全の意義についても考えることができるようにしています。(第一号及び第五号)</li> <li>グループ活動によって、協働しながら学習を進めることのできる教材を含めました。(第三号)</li> </ul>	<p>p.16 「イタリア語の歌を歌おう」  p.17 《O sole mio》  p.18 《Caro mio ben》  p.50 《Memory》  p.56 「ドイツ語の歌を歌おう」  p.58 《Heidenröslein》(ヴェルナー作曲)  p.59 《Heidenröslein》(シューベルト作曲)  p.60 《Ich liebe dich》  p.92 《Oh Happy Day》  p.98 《Smoke On The Water》  p.124 《Now Is The Month Of Maying》</p> <p>p.6 《ふるさと》  p.7 《ひまわりの約束》  p.22 《花》  p.23 《夏の思い出》  p.24 《見上げてごらん夜の星を》  p.45 《なごり雪》  p.47 《デイ・ドリーム・ビリーバー》  p.66 《虫のこえ》  p.87 《故郷》  p.102 《冬景色》  p.116 《願い》  p.118 《ぼくはぼく》  p.122 《夢みたものは……》</p> <p>p.63 《京畿道アリラン》  p.63 《ホルディリディア》  p.74 《安波節》  p.75 《安里屋ユンタ》  p.112 《高砂》  p.113 《羽衣》</p> <p>p.22 《花》  p.23 《夏の思い出》  p.66 《虫のこえ》  p.87 《故郷》  p.102 《冬景色》</p> <p>p.37 《序曲》  p.38 《サザエさん》  p.92 《Oh Happy Day》  p.103 《荒野の果てに》  p.116 《願い》  p.118 《ぼくはぼく》  p.122 《夢みたものは……》</p>

<p>器楽教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各楽器の特性や基本的な奏法を理解することができるように、分かりやすい図版と説明文を示しました。(第一号)</li> <li>和楽器の学習活動を通して、我が国の伝統音楽に親しみ、そのよさを味わえるようにしました。(第五号)</li> <li>グループ活動によって、協働しながら学習を進めることができる教材を含めました。(第三号)</li> </ul>	<p>p.11 「ボディー・パーカッションを楽しもう」  p.27 「チャイムでアンサンブルを楽しもう」  p.34 「リコーダーの運指表」  p.40,42,44,46 「Let's play the GUITAR」  p.96 「《Smoke On The Water》を演奏しよう」  p.70 「太鼓」  p.72 「篠笛」  p.74 「三線」  p.76 「三味線」  p.78 「箏」  p.10 《Plymouth Rock》  p.26 《星に願いを》  p.30～33 《Brazil》  p.36 《ザナルカンドにて》  p.43 《第三の男のテーマ》  p.71 《秩父屋台囃子》  p.73 《竹田の子守唄》  p.90 《枯葉》  p.98 《Smoke On The Water》  p.124 《Now Is The Month Of Maying》</p>
<p>創作教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒一人一人の創造性を育成するために、創作の学習目標と学習内容を明確に示しました。(第二号)</li> <li>グループ活動によって、協働しながら学習を進めることができる教材を含めました。(第三号)</li> </ul>	<p>p.28 「メロディーの雰囲気を変化させよう」  p.29 「演奏スタイルを変化させよう」  p.67 「オノマトペでリズムをつくろう」  p.80 「音階を選んで旋律をつくろう」  p.68 「オノマトペでアンサンブルをつくろう」</p>
<p>鑑賞教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>我が国の伝統と文化を尊重する態度を育成するために、我が国や郷土の伝統音楽を明確な学習の観点から学ぶことができるようにしました。(第五号)</li> <li>他国の伝統と文化を尊重する態度を育成するために、アジア地域を中心に世界各地の伝統的な音楽を取り上げました。(第五号)</li> <li>さまざまなジャンルの音楽に親しむ態度を育成し、幅広い知識を身に付けられるようジャズやロックを取り上げました。(第一号)</li> <li>作曲家の生涯を通して、時代背景や職業及び生活との関連を考察できるようにしました。(第二号)</li> </ul>	<p>p.110 「日本の伝統音楽」  (雅楽, 能, 箏曲, 尺八曲)  p.114 「郷土の民謡と芸能」    p.62 「世界の諸民族の音楽」  (「声による表現」「楽器による表現」)    p.88 「JAZZ」  p.94 「ROCK」    p.139 「モーツァルトの生涯と作品をたどろう」</p>
<p>その他の教材</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>幅広い知識と教養を身に付け、道徳心を培うことができるよう、コラムや読み物を豊富に取り入れました。(第一号)</li> </ul>	<p>p.11 「ルールを守って音楽を楽しもう」  p.48 「舞台芸術」  p.51 「演奏会や劇劇に行こう」</p>
<p>口絵資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>湖の水上に設営された舞台上演されるオペラの様子や能舞台に関する写真を通して、それらの上演にはさまざまな職業の人々が関わっていることに気付くことができるよう配慮しました。(第一号及び第二号)</li> <li>自然の大切さや環境保全、国際社会の平和の意味について考えることができるよう配慮しました。(第四号及び第五号)</li> </ul>	<p>口絵 i 「INVITATION TO MUSIC!」  口絵 iii 「国立能楽堂」    口絵 i 「INVITATION TO MUSIC!」  口絵 iv 「パリ・オペラ座」</p>

## 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

### ①我が国の音楽文化

我が国の音楽文化について取り上げる際には、我が国や郷土を愛する心を育むことができるよう、その背景や生活との関わりなども示しました。

p.70～79, p.107～115

### ②各学校の実態に合わせて選択することができる教材

表現と鑑賞の一体化を図った教材を配列し、各学校の実態に合わせてより多面的な学習活動を展開することができるようにしました。また、合唱曲については同声(女声・男声)、混声等で歌えるよう、さまざまな曲態を掲載しました。

p.35 《ボレロ》(リコーダー)／p.132 バレエ音楽《ボレロ》

p.52 オペラ《カルメン》／p.54《ハバネラ》, p.55《闘牛士の歌》

p.62 「世界の諸民族の音楽」／p.63《京畿道アリラン》《ホルディリディア》

p.88 「JAZZ」／p.90《枯葉》

p.94 「ROCK」／p.98《Smoke On The Water》

p.22 《花》(同声二部), p.58 《Heidenröslein》(混声四部), p.87 《故郷》(同声三部/混声四部),

p.116《願い》(同声三部), p.118 《ぼくはぼく》(混声三部), p.122 《夢みたものは……》(混声四部) など

### ③学習活動文とリンク

それぞれの教材に活動のポイントを明示し、生徒が主体的に楽しく学ぼうとする意欲をもつことができるようにするとともに、学習が確実に行われるよう配慮しました。また、その教材と関連のある楽曲や資料などのページにリンクを張り、生徒が興味・関心をもって音楽の理解をいっそう深めることができるようにしました。

### ④発声や指揮に関するコラム

音楽の基礎的な技能を養うことができるよう、歌唱の学習に必要な発声に関するコラム「ヴォイス・トレーニング」を掲載しました。

また、合唱や合奏の学習に必要な指揮についても、「指揮にチャレンジ」というコラムを設け、図版を交えて分かりやすく解説しました。

### ⑤曲の魅力を探る「Caro mio ben 大解剖！」

生徒と先生の対話形式を用い、歌詞、構成、リズム、旋律、強弱、テンポなどさまざまな角度から一つの教材を分析して曲の魅力を探り、表現を深めることにつなげることができるページを設けました。

p.20 「Caro mio ben 大解剖！」

### ⑥読譜や記譜の能力の育成

音楽を豊かに表現するための基礎的な能力(楽譜を見て、音高や音程、リズム、フレーズなどを把握して演奏する能力)を育成するために、「ソルフェージュ」や「楽譜の書き方」を掲載しました。

p.12 「ソルフェージュ」, p.146 「楽譜の書き方」

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-194	高等学校	芸術	音楽I	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
27 教芸	音I 310	MOUSA1		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### ①基礎的・基本的な知識、技能の習得への配慮

生徒が主体的に楽しく学ぼうとする意欲をもつことができるよう内容を充実させました。それぞれの教材に活動のポイントを示し、演奏する際の注意点や、音楽用語の読み方とその意味を必要に応じて掲載しました。また、ページ間にリンクを張ることで音楽の理解をいっそう深め、それらを関連付けることにより音楽の能力が確実に定着するようにしました。

### ②表現と鑑賞の一体化を図る

音楽文化に関わる知識をいっそう深めるために、表現と鑑賞を一体化させて活動を展開することができるようにしました。「まず演奏し、その後に鑑賞して音楽のよさをさらに味わう」「鑑賞して感じ取ったことを生かし、自分たちの演奏を工夫する」など、常にフィードバックして学習することができるよう配慮しました。

### ③言語活動の充実

鑑賞活動において根拠をもって批評し合うことができるよう、具体的な「鑑賞のポイント」を提示し、鑑賞時の着眼点やその教材で何について批評したらよいか分かるよう配慮しました。また、その際の参考になるよう「音楽を鑑賞する際に」を設けました。

### ④音楽文化に関する学習の充実

我が国の伝統音楽や長く歌い継がれてきた日本の歌の学習を通して、日本人としての自覚をもつことができるよう内容を充実させました。また、諸外国のさまざまな音楽に触れるとともに、我が国の音楽との関連や違いについても理解することができるよう配慮しました。

### ⑤生涯にわたって音楽への愛好心を育む

教材が一つの地域や時代、ジャンルに偏ることのないよう留意するとともに、さまざまな教材を通して多様な音楽に接することができるよう配慮しました。また、生涯にわたって音楽への愛好心を育むことができるよう、新しい音楽経験と出会った際に役立つコラムや資料を豊富に掲載しました。



図書の構成・内容		学習指導要領の内容																
		A 表現												B 鑑賞				
		(1) 歌唱				(2) 器楽				(3) 創作								
		ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	ア	イ	ウ	エ	
		イメージをもつて歌うこと。	曲想を歌詞の内容や楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、	曲種に応じた発声の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。	様々な表現形態による歌唱の特徴を生かし、表現を工夫して歌うこと。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて歌うこと。	曲想を楽曲の背景とかかわらせて感じ取り、イメージをもつて演奏すること。	楽器の音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。	様々な表現形態による器楽の特徴を生かし、表現を工夫して演奏すること。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて演奏すること。	音階を選んで旋律をつくり、その旋律に副次的な旋律や和音などを付けて、イメージをもつて音楽をつくること。	音素材の特徴を生かし、反復、変化、対照などの構成を工夫して、イメージをもつて音楽をつくること。	音楽を形づくっている要素の働きを変化させ、イメージをもつて変奏や編曲をすること。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて音楽をつくること。	声や楽器の音色の特徴と表現上の効果とのかかわりを感じ取って鑑賞すること。	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて鑑賞すること。	楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞すること。	我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴を理解して鑑賞すること。
ページ	教材名																	
34	リコーダーの運指表							●										
34	C-a-f-f-e-e					●	●	●	●									
35	ボレロ					●	●	●	●									
36	ザナルカンドにて					●	●	●	●									
37	序曲	●	●	●	●													
38	サザエさん	●	●	●	●													
39	ヴォイス・パーカッション			●	●													
40	Let's play the GUITAR STEP 1 基礎編							●										
42	Let's play the GUITAR STEP 2 アンサンブル編							●										
43	第三の男のテーマ					●	●	●	●									
44	Let's play the GUITAR STEP 3 アルペジオ編							●										
45	なごり雪	●	●	●	●	●	●	●	●									
46	Let's play the GUITAR STEP 4 ストローク編							●										
47	デイ・ドリーム・ビリーバー	●	●	●	●	●	●	●	●									
48	舞台芸術														●	●	●	●
50	Memory	●	●	●	●													
51	演奏会や観劇に行こう	内容の取扱い(8)音や音楽と生活や社会とのかかわり、音環境への関心																
52	オペラ《カルメン》														●	●	●	
54	ハバネラ	●	●	●	●													
55	闘牛士の歌	●	●	●	●													
55	オペラ・アリアの楽しみ														●	●	●	
56	ドイツ語の歌を歌おう	●	●															
57	多くの作曲家に愛された『Heidenröslein』																●	
58	Heidenröslein(野ばら)(ヴェルナー作曲)	●	●	●	●													
59	Heidenröslein(野ばら)(シューベルト作曲)	●	●	●	●													
59	シューベルトの歌曲																●	
60	Ich liebe dich(君を愛す)	●	●	●	●													
62	世界の諸民族の音楽														●	●	●	
63	京畿道アヒラン	●	●	●	●													
63	ホルディリディア	●	●	●	●													
66	虫のこえ	●	●	●	●													
67	創作3 オノマトペでリズムをつくらう	内容の取扱い(5)作品を記録する方法の工夫										●		●				
68	創作4 オノマトペでアンサンブルをつくらう	内容の取扱い(5)作品を記録する方法の工夫										●		●				



